

XI 原子核工学関係科目

原子核工学概論 (Introduction to Nuclear Engineering)

井頭 政之 教授 齊藤 正樹 教授 飯尾 俊二 准教授 前学期 2-0-0

- I 原子力の利用に必要な理工学の基礎の概要を述べる。
- II 1. 原子力発電の基礎 2. 原子動力プラント 3. 原子核エネルギーの将来展望

XII その他の専門科目

マルチメディアと学習環境 (Multimedia and Learning Environment)

室田 真男 准教授 前学期 1-1-0

- I マルチメディア利用による効果的な学習・教育環境について理解を深めることを目的とする。
- II マルチメディア環境として国立科学博物館を活用した授業を設計・相互実践し、その結果を発表および討論する。

学習メカニズムの数理モデル (The Mathematical Models of Learning Mechanisms)

中川 正宣 教授 後学期 1-1-0

主に人間の学習メカニズムを中心に、人間の hochi 認知過程、すなわちパターン認識、推論、意思決定、問題解決、言語理解、感情等を含む様々な心理学的事実について、心理学実験に基づく心理学理論を概説する。別に、コンピュータグラフィックスで表現されるモデルのシミュレーション結果を用いていわゆる「心のコンピュータモデル」についても、なるべく具体的にわかりやすく説明する。

情報技術と人間・社会 (Information Technology and Society)

高橋 等 非常勤講師 奇数年度開講 後学期 1-1-0

- 1. 情報化の進展は、企業や学校での社会活動はもとより個人としての家庭生活にも大きな影響を及ぼしている。本講では、情報化の進展がもたらす恩恵とリスクについて概観し、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度を身につさせる指導について理解を深めることを目的とする。
- 2. 情報技術の発達と生活や産業の変化、情報モラル、プライバシーや著作権等の保護、情報セキュリティ、メディアリテラシーなどの内容を扱う。

情報と職業 (Information Technology at Work Place)

高橋 等 非常勤講師 偶数年度開講 後学期 1-1-0

- 1. 情報化の進展により、企業活動のあらゆる場面で情報技術を持つ人材が求められている。しかし、企業が求める人材の能力は多種多様であり常に変化している。本講では、情報関連産業の実態を概観し、求められる人材の育成と職業指導について理解を深めることを目的とする。
- 2. 情報と職業の関わりとして、情報技術と人材育成、雇用環境と経営環境、企業倫理と企業の社会的責任、情報に関する職業人としてのあり方など、幅広い内容を扱う。

これからの経営管理とプロフェッショナル育成 (Organizational Management and Professional Development)

世木 茂 非常勤講師 杉本 守孝 非常勤講師 前学期 1-1-0

I 時代は、グローバルな規模で、20世紀と異なる様相を呈してきた。

一方、“第2次ないし、第3次産業革命”ともいうべき新時代を受け止める日本の青年層の意識には、“ローカルな思考と保守的姿勢”が強く見られる。

本講座は、今という時代の“風の構造”を経営者の視点で読み解く。また、新時代を生きるプロフェッショナルとして、多様な選択肢の中から“自分の人生をどう切り開くのか”，複数の視座から見つめていきたい。

II 講座の内容は、

知価社会と知創造経営の時代とは？

グローバル化時代とICTによる情報革新に組み込まれた、新・経営管理のしくみとは？

プロフェッショナルとしての目標をどこに定めるか？

幹部として、プロフェッショナルとしての能力とリーダー像とは？

企業の人事制度と能力開発のしくみとは？

職場と個人の“潜在の能力の発揮”と“活性化”の源とは？

他者を理解することによって“自分自身を理解する”とは？

etc. とする。

実際の企業現場ケース，講師体験をもとに，講義と討議を各々，均等に時間配分したい。

科学技術者国際コミュニケーション (Advanced International Communication for Engineers)

°高橋 章浩 准教授 岸本 喜久雄 教授 三上 幸一 教授 河村 憲一 准教授

谷口 泉 准教授 齋藤 滋規 准教授 中川 茂樹 准教授 前学期 0-1-0

I 科学技術者のための実践的な英語コミュニケーションスキルの開発を行う。海外の大学生と少人数のグループ研究を行い，英語によるコミュニケーションとプレゼンテーションスキルを習熟する。

II 英国ケンブリッジ大学工学部で日本語を履修している学生とチームを組み，ビデオ会議，電子メールによる英語・日本語を使用したコミュニケーションを行う。研究テーマとしては日本の最先端の製品・技術を取り上げる。